

# ダイバーシティ・エクイティ・ インクルージョンを考える

## ～日本、カナダ、米国における職場 の多様性からの検討～

(米国東部標準時間) 2022年10月13日午後8時～午後9時30分  
(日本時間) 2022年10月14日午前9時～午前10時30分

### ウェビナー概要

日本でも、職場におけるジェンダーギャップ解消や、学校教育におけるLGBTQ+ 児童生徒へのいじめ防止、高等教育における障害を持つ学生への合理的配慮の提供、外国人労働者に対する入管規制の緩和などを目的とした立法や政策がとられるなど、近年は社会がより公平な方向へと向かっているように見えます。そのなかでダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公正性)、インクルージョン(一体性)といった言葉が語られるようになりましたが、実際には日本の文化・社会でどのような意味で使われているのでしょうか?言葉の意味そのものが、時代とともに進化してきた経緯をふり返り、理解を深めてみませんか?また、これらの用語は、アメリカやカナダでも同じように理解されているのか?日本と北米を比較することで、さらに俯瞰した視点から理解を深める機会として、今回のウェビナーを企画いたしました。

この度、日本・米国・カナダから、ビジネス、NPO、教育分野でリーダーとして活躍する女性のパネリストを招き、これらの課題に対する答えを探っていきます。女性、LGBTQ+、障害者などの属性を持つ人々は、それぞれの分野で、ある時は受け入れられ、ある時は排除され、ある時は優先度高く、あるいは優先度低く扱われてきました。その際に、前述の用語や概念がどのように理解され使用されているかについて検討します。また、多様性のある職場とは、具体的にどのような職場か?多様性のある非営利団体や大学はどんな場なのか?など、日本社会が多様性やインクルージョンを実現するために役立つ、あるいは障壁となりうる要素について考察します。さらに、様々な背景を持つパネリストが考える「今後のあり方」、多様性やインクルージョン実現のために、ビジネス、政府、非営利団体、教育機関が果たすべき役割についても検討します。

最後になりますが、マサチューセッツ大学地域インクルージョン研究所は「Your Voice, Your Experience プログラム」の発表を今月中に予定しております。「Your Voice, Your Experience」は、日米の大学生や若い社会人を対象にした新しいコンセプトのリーダーシップ研修です。デジタル・ストーリーテリングの手法を用いて、参加者同士が多様性やインクルージョンに関する経験を分かち合い、深く探究するプログラムとなっております。詳細はウェビナー内でご案内予定です。

情報保障:日英同時通訳、日英文字通訳、  
日本手話、アメリカ手話

上記の情報保障では十分な参加が不可能で、追加の配慮が必要な方は、別途ご連絡ください。

お問い合わせ先:

Heike Boeltzig-Brown, PhD  
プロジェクト・ディレクター  
[Heike.Boeltzig@umb.edu](mailto:Heike.Boeltzig@umb.edu)

楠本沙織 プロジェクト・コーディネータ  
[Saori.Kusumoto@umb.edu](mailto:Saori.Kusumoto@umb.edu)

事前登録制・参加費無料

登録はこちらから: <https://tinyurl.com/mr2rckxw>

The project is funded by the U.S. Embassy Tokyo.



UMass  
Boston



## 司会

### EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 アソシエイト・パートナー ナンシー・ナガオ

EY Japan で、Change(変化)・Culture(文化)・Inclusion(インクルージョン)分野のコンサルティングを担当。これまで38年以上にわたり、リーダーシップ、ビジネス運営、人事に携わる。2004年には米国EYで、障害者の Hiring(雇用)& Enabling(能力開発)の取り組みを立ち上げる。また日米両国のEYで、LGBT+ や彼らのアライが立ち上げた従業員のリソースグループを、エグゼクティブスポンサーという立場で支援する。

多様性やインクルージョン、変化を生む活動への支援といったトピックで、数多くの講演、執筆を行う。在日米商工会議所、Ascend Leadership(北米最大のアジア系アメリカ人の専門職協会)、米国EYや日本EYコンサルティングのD&I(ダイバーシティとインクルージョン) 諮問委員、ロサンジェルス中華系商工会議所など、EY内外の様々な組織でも理事などの要職を務める。

現在は夫と末息子と共に東京在住。



## パネリスト

### 昭和女子大学 理事長・総長 坂東 眞理子 (ばんどうまりこ)

自らのキャリアで女性のエンパワーメントとジェンダーギャップ解消を体現してきた、この分野の第一人者。「男女共同参画社会へ」など著書は50冊以上あり、なかでも「女性の品格」は2007年にベストセラー1位となった。1969年に東京大学を卒業後、女性初のキャリア官僚として総理府に入省。以来、女性のキャリアを切り拓く。1995年には埼玉県副知事に任命される。1998年にはオーストラリアで女性初のプリズベン総領事に任官される。2001年から2003年まで、小泉純一郎内閣のもと、内閣府男女共同参画局長を務める。また、ハーバード大学Bunting研究所で客員研究を行い、同大ケネディスクール「女性と公共政策プログラム」で、女性エグゼクティブの日米比較研究を行う。私生活では、夫と2人の娘がいる。



### 徐 みづき ダイバーシティ&インクルージョン専門家 (障害アドボカシー、執筆、講演)

ビジネスにおけるD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)の実践、障害に関するアドボカシー活動、執筆、講演活動を精力的に展開。2022年にはledersHumによって「世界のダイバーシティ&インクルージョン・トップリーダー30名」に選ばれる。

日本生まれ、日本育ち。高校卒業後に渡米し、ウィスコンシン州立大学リバー・フォールズ校でコミュニケーション学と国際学の学士号を取得。日本に帰国後、東京のいくつかの会社で働くと同時に、障害を持つ女性のための季刊誌を発行する非営利団体でボランティアを行う。国内外で障害を持つ人々の雇用機会均等を促進することに情熱を傾け活動を続けた結果、ダスキン愛の輪基金の支援を受け、ニューヨーク州シラキュース大学のバートン・ブラット研究所で障害と雇用に関する研究を行う機会を得る。1年間の研究期間中に、アメリカの10州を訪れ、職場における障害者のインクルージョンを最大化する効果的な戦略と実践について、100人以上に聞き取り 調査を行う。働く2女の母であり、車椅子利用者でもある。



### 株式会社 enjoi日本 創設者・代表取締役 一般社団法人 FEW Japan 代表理事 スティール F. 若希博士

政治学者として、東京大学で6年間准教授を務めるなど、日本・カナダの一流大学で教鞭を執り、発表した論文は30本を超える。カナダ大使館(東京)への協力、ジェンダー平等、多様性、危機災害リスクガバナンスに関する国連会議のアドバイザーも務める。また、株式会社enjoi日本を立ち上げ、エビデンスにもとづく包括的なビジネス戦略として、イノベーションを生み出す多様性・公平性の推進(DEI)の重要性を企業トップに提案している。2022年4月より、アマゾンジャパン合同会社でシニアDEIビジネスパートナーを務める。ボランティア活動の一環として、女性のエンパワーメントに取り組む一般社団法人FEW Japan(在日多国籍女性の会)会長、プライド・ビジネスアライアンス・ジャパン代表、SheEOのエンジェル投資家、東京大学公共政策大学院に籍を置くWomEmpowered Internationalの戦略アドバイザーを務める。日本語・英語・フランス語に堪能で、3言語での執筆、講演活動を各国で行っている。

